

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

No. **150**
2016. 3



Contents

02	協議会ニュースの思い出	編集担当	久米 未祐
03	平成 28 年度 通常総会・講演会	事務局	石原 則義
04	協議会交流の日 報告	尾張支部	平井 直人
05	面ノ木の紅葉・黄葉	西三河支部	相良洋子
06	自然素材を使ったクラフト	尾張支部	齋竹 善行
07	尾張支部総会報告	尾張支部	内海 勇夫
	東三河支部総会報告	東三河支部	寺本 和子
08	私の活動紹介	東三河支部	森 拓矢
09	世界のインタープリテーション	東三河支部	中西 正
	第5話 ガラパゴスで自然をみる	事務局	石原 則義
10	平成 27 年度 第4回理事会 報告		大竹 勝
11	私と自然		
12	大竹勝氏の「私と自然」について/編集部から		

今号の表紙

木村 絢子（尾張支部）

ハルノノゲシ

平成 28 年度

通常総会・講演会

愛知県自然観察指導員連絡協議会の通常総会を下記の通り開催いたします。総会是一年を振り返り、新たな年度の事業などを決定します。日頃出会う機会の少ない遠方の会員の皆様との交流の場にもなります。是非、皆様ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：平成 28 年 3 月 21 日（月・春分の日）13:30 ～

場所：日本特殊陶業市民会館 3F 第 1 会議室

名古屋市中区 金山一丁目 5 番 1 号 Tel (052) 331-2141

※地下鉄・JR・名鉄金山駅北口から徒歩 5 分

名札をご持参
ください

= 次第 =

13:15 受付開始

13:30 平成 28 年度通常総会開会宣言

- 1) 総会参加者数の報告
- 2) 平成 27 年度の協議会各理事紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事

- ①第 1 号議案 平成 27 年度事業報告
- ②第 2 号議案 平成 27 年度決算報告
監査報告
- ③第 3 号議案 新役員承認
- ④第 4 号議案 平成 28 年度事業計画(案)
- ⑤第 5 号議案 平成 28 年度予算(案)
- ⑥質疑応答・その他

14:30 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

14:40 講演会

演題：「世界に誇る辺野古・大浦湾のサンゴ礁の海」

講師：安部 真理子 日本自然保護協会 自然保護室主任

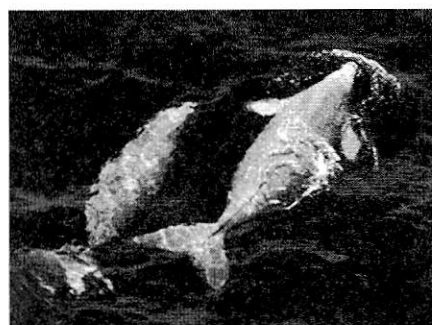
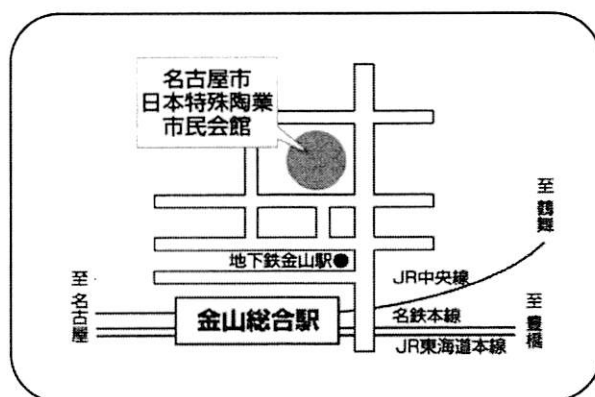
大学、大学院にて生物学と生化学を専攻し、WWF ジャパン勤務。琉球大学博士課程にて博士号(理学)を取得。日本サンゴ礁学会保全委員、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会理事、海の生き物を守る会運営委員。

16:20 閉会・後片付け

16:30 会場退出

※ 当日の緊急連絡先 事務局：石原携帯・090-8607-6712（当日のみ）

※ 総会終了後、懇親会 17:00～（希望者は各支部長に事前連絡）



ユギョの親子
©T.Higashionna



テレビンのアオサンゴ群集
©O.Makishi

協議会交流の日 報告

尾張支部 平井 直人

【日 時】11月23日(月・祝) 10:00～15:00

【場 所】犬山市野外活動センター

【参加者】24名(名古屋支部9名、西三河支部3名、知多支部2名、東三河支部1名、尾張支部9名)

協議会交流の日は、支部持ち回りで開催することとなり、今回は尾張支部が担当です。今回は8月の指導員講習会を受講された新指導員の歓迎会も兼ねて、11月23日(月) 勤労感謝の日、犬山市の栗栖地区にある野外活動センターで開催しました。ここは近くが紅葉の名所であるうえ、炊事棟があり雨天時でも対応できることから選定しました。

名鉄犬山駅東のロータリーが集合場所でした。案内の目印も持たずに立っていたので心配しましたが、何となく同じ気配を感じるなあと思うとやはり他支部の方々。なんとか集合していただき、犬山市のマスコットキャラクター「わん丸君」が描かれたコミュニティバスに乗り、紅葉で有名な寂光院を目指しました。大勢が乗り込んだバスは少々窮屈でしたが、ほどなく寂光院の入口となる木曽川沿いの停留所に到着しました。

2億万年前に、放散虫という微生物の殻が遠洋の深海底で堆積してできたチャートの褶曲(しゅうきょく)を見ながら、境内まで登りました。紅葉のピークにはまだ早いようでしたが、赤いイロハカエデを愛でながら不老の滝まで下りました。谷を削った大平川がチャートの岩盤にぶつかってで

きた滝を見た後、木曽川沿いの道を歩き桃太郎公園に着きました。

河原に出て、カワラハンノキやヤナギ類などの河原特有の植物やポットホール、褶曲したチャートや砂岩、泥岩の層を観察しました。河原は、太平洋プレートが大陸の下にもぐりこむ部分にできる「付加体」が露出した場所になっているのです。地球のダイナミックな動きや大地の大きなエネルギーを感じました。

お昼を過ぎて、交流会の会場になっている犬山市野外活動センターに到着しました。尾張支部が準備した豚汁や、各自が持ち寄ったおいしいごはんやお菓子を食べた後、自己紹介が始まり、和気あいあいの時間が過ぎました。帰途は15時過ぎのコミュニティバスを予定し、その前に解散しましたが、近くの桃太郎神社などを見て帰られた方もいました。

各支部より大勢の方々にお集まりいただきまして、ありがとうございました。



▲野外活動センターにて全員集合

面ノ木の紅葉・黄葉

西三河支部 相良洋子

日時 : 2015年11月7日(土)9:00~12:00

場所 : 面ノ木(豊田市稲武町)

参加者: 指導員10名、他支部指導員2名、
一般7名、合計: 19名

青空で小春日和の暖かい観察会でした。
面ノ木園地~天狗棚展望台~天狗棚(1,240m)~原生林を回って、出発地の面ノ木園地に帰るコースで観察しました。

ここはブナ、ミズナラの原生林があり、落葉広葉樹林が多く、特にカエデ類の宝庫です。今回のテーマは「紅葉・黄葉」。色づく木の葉の観察です。

最初にオオイタヤメイゲツ、コハウチワカエデのお出迎えです。黄色、橙色、赤の入り混じった紅葉と色とりどり。続いてオオモミジの黄色と赤の整った葉の紅葉。繊細で淡い橙色のヒナウチワカエデ。そして、ヤマボウシのやわらかな赤と次々に観察を続けます。谷間ではカナダ国旗を連想するカジカエデの黄色も美しい。そして、黄葉前のコクサギの実が観察できました。3~4個の分果からなり、上部が裂開してバネのような役割をする内果皮で黒褐色の種を飛ばします。殻の分果は閉じて木に残るようです。親株の周辺部に自動散布する仕組みで増えていくそうです。

落ちている葉ではカエデの仲間のチドリノキとカバノキ科のサワシバは判りにくいのですが、皆で見分け方を確認し合いました。メグスリノキが沢山あり、サーモンピンクのやさしい赤は青空に美しく映え、感激しました。尾根に出るとコミネカエデの赤色が実に美しかったです。ヒトツバカエデ(マルバカエデ)は、すべて落葉していて薄茶色にまるまった姿で残念でした。

天狗棚展望台では富士山も見える大変よい景色を楽しみました。天狗棚を後に、原生林に向かいました。



▲津具町の街並み(天狗棚展望台から)

樹齢300~400年の太平洋型ブナ林。今年はブナの実が大成りで、皆で拾って試食しました。尖ったところに爪を入れ、取り出した白い実は大変美味しかったです。面ノ木でたくさんの実をつけたということは、何を私たちに知らせてくれているのでしょうか? 大量の実が落ちて、その実から発芽して少しでも育ってほしいと願います。枯れたブナの大木にヤシャブシの実・スギラン・ツキヨタケ・コフキサルノコシカケ等が付いていました。

下りではオオウラジロノキの落葉のふかふかの手触りと樹皮を観察、青リンゴのような実も拾いました。キハダの大木が多くて黒い実の付いている木、付いてない木があり、雌雄異株を観察しました。夏にはミヤマカラスアゲハが見られるかな・・・と期待しました。ミズメもたくさん有り、茶褐色の葉が大量に地面を覆っていました。暖かい日が続き「紅葉・黄葉」がきれいに保たれていて、秋を十分に楽しめました。

自然素材を使ったクラフト

尾張支部 齋竹 善行

【日 時】10月31日（土）10:00～15:00

【場 所】春日井市少年自然の家 工作室

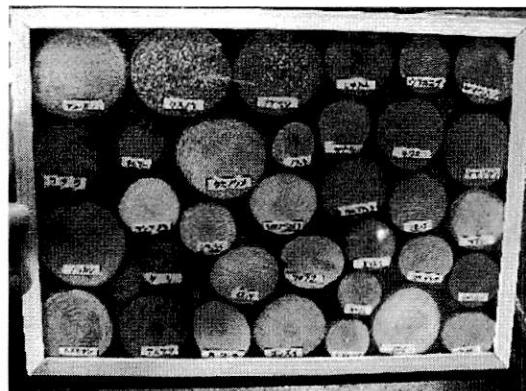
【内 容】樹木の輪切り標本&名札づくり

【参加者】尾張支部6名、知多支部1名、
西三河支部1名

春日井市少年自然の家の工作室を借りて、講師の木村眞一郎さんの指導で樹木の幹や枝を使った工作を行いました。

午前中は幹を薄く輪切りにしたものを箱に詰めて標本作りです。本来なら自分で材料を確保してきて、それを薄切りにするところから始めるのですが、時間の都合で、講師が予め薄切りにし名前も表示した材料を準備し、それを各人の好みで選んで箱詰めしました。選ぶ素材や詰め方にそれぞれの個性がでていました。一人で2箱作った方もみえました。

この薄切り標本は、樹木を観察する時に、この樹の幹はこんなふうですよと提示して参加者の理解を深めるのに役立つツールです。



▲完成した薄切り標本

午後からは名札作りです。

自分で丸太を薄切りにし、表面を磨きその上に絵や字を書いていきます。鉛筆で下書きをし、焼ゴテで絵や文字を描き、色を付けて作りました。他に、小枝で字を作り表面に接着する方法、フェルトを張ってそ



▲樹木の薄切り標本作り

の上にヌスビトハギなどの実で名前を書く方法なども紹介されました。

作る時は口数も少なく作業に集中していましたが、それぞれ楽しめたようです。こういう工作の研修もいいねという感想が聞かれましたが、協議会主催の研修なので、もう少し多くの参加者が集まるようにすることが課題かなと思いました。



▲完成した名札

尾張支部総会報告

尾張支部 内海 勇夫

日 時：1月11日(月・祝)13:30～

場 所：東桜会館(名古屋市東区)

出席者：17名

尾張支部の総会は17名の参加で開かれ、平成27年度事業報告・決算及び監査報告が承認され、平成28年度の役員、事業計画及び予算が決定されました。

「定例観察会」は、現在10箇所で開催されています。さらに、「稲作り体験&観察会」が不定期で行われています。支部の「一泊研修」も計画しています。

協議会関係事業としては、「協議会交流の日」への参加や「あいちの自然観察会」、「研修会」に取り組みたいですと思っています。

予算関連の提案で、会員から「予算に余裕があれば定例観察会へ助成を」との提案がありました。しかし、予算の余裕については会報を隔月送付にしたこととメール配信でお願いできる方が増え、郵送料が浮いてきたためのものなので、今後は会の発展のために、新入会員が参加しやすい環境をつくる等の方向で考えていきたいと思っています。

総会に引き続いて開かれた交流会で、「ギフトチョウの住める里山づくり」について小木曾会員が、「私の観察」について大谷会員がプレゼンテーションを行い、それぞれ興味深い話を聞くことができました。その後、場をかえて懇親を深めました。

尾張支部 平成28年度役員

会 長：齋竹 善行

副 会 長：平井 直人

事 務 局：内海 勇夫

会 計：木村 眞一郎

監 事：小木曾 三廣

通信編集：高谷 昌志

通信発送：出口 慎治

HP管理：山田 博一

東三河支部総会報告

東三河支部 寺本 和子

日 時：平成28年2月6日(土)14:00～

場 所：豊橋パークホテル吉祥閣

出席者：27名

平成27年度事業報告および、事業会計収支報告、平成28年度事業計画、および事業会計収支予算など議案は全て承認されました。役員の任期は2年のため、今年の改選はありませんでした。

総会後、会員の間瀬美子さんの「カルタで学ぶ東三河のジオサイト」と題した講演が行われました。東三河は特徴的な地質、地形などにより形作られた多様な場所（ジオサイト）に恵まれており、近い将来「ジオパーク」に認定されることが期待されています。その活動の一環として東三河のジオサイトを紹介するカルタも試作されています。間瀬さんは「取り札」の絵をスライドで示し、苦労が感じられる「読み札」の文章を読み上げながら概要を紹介しました。（「ジオパーク」について、詳しくはホームページ<http://www.geopark.jp/index.html>をご覧ください。）また、NACS-Jの「自然保護」誌でも紹介された、間瀬さん手作りの紙芝居「領家のおじいのひとりがたり」の上演と、三河湾の仏島にまつわる怪談を、昔話の語り部さながら臨場感あふれる話術で披露し、拍手喝采でした。

その後、懇親会が行われ、記念写真撮影後、散会しました。

東三河支部 平成28年度役員

会 長：寺本和子

副 会 長：影山博史（事務局兼）
岩崎員夫（会計兼）

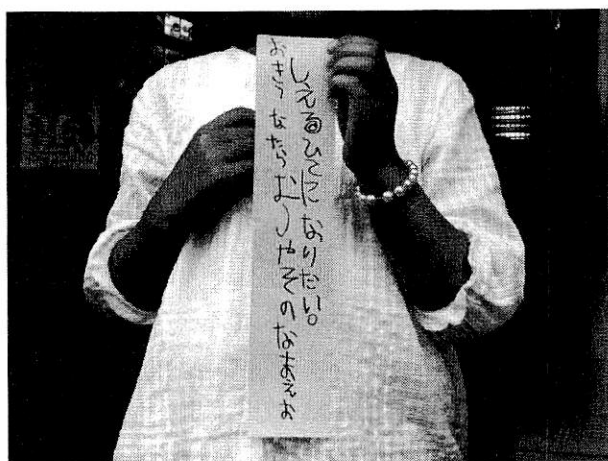
私の活動紹介



東三河支部 森 拓矢

現在のわたしの活動を紹介する前に、わたしが東三河自然観察会の会員、自然観察指導員になったきっかけを話したいと思います。

今、小学5年生の娘が5歳の七夕にと短冊に願い事を書きました。



「おきくなたらむしやそのなまえおしえるひとになりたい」

折しも COP10 の開催年で生物多様性に関係するイベントが多く開催されていました。その中の東三河自然観察会の主催する自然観察会に何度か参加するうちに勧誘を受けて入会、2011 年に自然観察指導員講習会を受講しました。

その娘も先の協議会ニュースに掲載されたように、ジュニア会員として入会し、インタープリターを一部任せていただけるようになりました。

他支部の状況はわかりませんが、東三河支部は、植物、哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類など、それぞれの分野でとても詳しい方が揃っています。その中で自分に何ができるのか？というのは入会以来の悩みでした。

これならできるかな？と考えたのは、会のホームページの運営です。3年ほど前役員の交代の時、当時ホームページを担当していた前会長から引き継ぐことになり、現在に至っています。

ホームページの役割は、スケジュールの紹介、自然観察の魅力を伝えることが目的かと思います。レポートは毎回掲載し、写真だけでなく、紹介する対象に応じて動画や全天球写真を掲載して魅力を伝えるようにしています。

ホームページ担当になって大変なのは、とにかく休めない！ことです。どうしても都合がつかない時は参加する会員の方にお願ひしますが、基本的には全て参加です。

また、撮影は一般の参加者の邪魔にならないように素早く行い、まだまだ私には分からないものが多いので、聞き漏らさずメモを取ることも必要です。

ホームページをご覧いただき、東三河の良さを感じていただけたら、当支部の観察会にもぜひご参加ください。

<http://www.higashimikawa-shizen.jp>



第5話 ガラパゴスで自然をみる

東三河支部 中西 正

ガラパゴスでは第一級の保護がされており、機内への持ち込みは通常より厳しい。リンゴを持ってきた人は、空港で消費していた。ガラパゴスに着く直前に貨物室に殺虫スプレーがまかれていた。これは蚊によるマラリアの侵入を防ぐためだと聞いた。

ガラパゴスは人口3万人、そのうちサンタクルス島に2万人が住み、最大の街がプエルト・アヨラである。

ガラパゴスの中は決められた場所をナチュロリストガイドの付き添いがないと歩けない。それも16人に一人の割合という。従って我々には二人のガイドが付いた。女性のブランカと男性のウイロウで、ブランカは写真家の藤原さんが来たときは必ずガイドするそうだ。ガイドは2ヶ国語以上でき、生物学や地理学の学位を持つ。現在は全員がエクアドル人である。

無人島のノースセイモア島へはクルーザーで行き、小型ボートに乗り換え上陸する。島の周囲は、高さ7.8mはある断崖で、もちろん人工の栈橋はない。船が着けられる岩を利用して岩に船を押し付け、ガイドが先に上陸して我々を一人ずつ、引っ張り上げる。

真っ先に出迎えてくれたのがアシカだった。岩の間に一頭いて我々を見ている。その向こうの岩の上にはペリカンがいる。首が茶色で綺麗なガラパゴスカッシュョクペリカンだ。上陸地から島の上まで上がると、そこにはすでにアオアシカツオドリが目の前にいる。つついカメラを目の前に持って行きたくなるが、人を恐れない動物がいても2m以上は近づいてはいけないという不文律がある。

全員が揃った段階で、自然の中での注意

がなされる。この島には1.2kmのトレイルが作られている。道幅は決められているが少しずつ広げられている感じだ。アオアシカツオドリは、この道に巣をつくっているものもある。足の青さを身近に眺められる。カツオドリが裸地の地面に巣をつくるのに対し、ガラパゴスアメリカグンカンドリは樹上、といっても1~2m程度の高さに巣をつくっている。成鳥のオスはのどの袋を大きくふくらませることでメスにアピールする。羽を広げれば3mにならんとするこの鳥が、10も20もかたまって空を飛んでいる姿はジュラシックパークの世界だ。

別の島ではビーチの見学をした。ここでは小型ボートで溶岩の末端に上陸する。ここではペンギンが泳ぐのを見た。グループの何人かはシュノーケリングをして、ウミガメやウミイグアナと一緒に泳いでいた。ガイドは前日までウイロウだったが、今日はブランカだった。今日の見学地が海を含むということで、その資格をウイロウは持たないためという。ガイドの資格は何段階かに分けられているという。ただ、それらは形式だけになっていないか？ガラパゴスは一時危機遺産になっているし、2013年にはアマゾン源流の開発が強行されようとしていた。エクアドルでは国立公園の保護体制に問題があるかもしれない。



▲サンチャゴ島で溶岩の観察

平成 27 年度 第 4 回理事会 報告

日 時：11 月 29 日（土・祝）13:30～ 場 所：阿久比町中央公民館（本館）研修室 308 号（3 階）

出席者：大谷、石原、森田、永田、布目、石川、浅井、堀田、斎竹、滝田、南川、三田、河江

◆活動報告(8月～11月) 主要行事について各支部長から結果の報告。

ピックアップ（行事詳細やその他の行事については、149号または今号の別記事を参照のこと）

生物分類研修会	「大変良かった」という声がある一方で、「資料が少なかった」「中央に演台があり見にくかった」との意見も。
自然観察指導員講習会	受講者 51 名（県外 8 名）のうち 24 名が県協議会に入会。まだ入会されていない方（県外の方、支部に未所属の方）に、入会のお誘いと、県及び支部总会等を案内することを確認。
受託事業「豊田市稲武・自然観察ハイキング」 名古屋市立振甫中学校からの依頼	日時：10月20日（火）10:00～12:00 場所：稲武第 1 本館から面ノ木園地（2.5km） 指導員 20 名派遣。事前にリーダー研修会を実施（10月 9 日・17 日）。下見は西三河支部 2 名（山本氏・水谷氏）。当日の指導員は名古屋 6 名・尾張 5 名・知多 5 名・西三河 4 名（内、新人指導員 3 名）。次回実施する際にはリーダーの反省会をし、下見時にも手当を支給することを確認。

◆議案

1. 来年度（2016年度）の行事日程（案）

あいちの自然観察会を「一斉観察会」として実施する案	「あいち自然観察会」は、他支部の参加が少ないのが実情。これではやる意味がないとの意見があり、研修係から「一斉観察会」として、5 月 4 日（祝）に実施してはどうかとの提案あり。第 5 回理事会までに検討。
研修会（各支部担当）	従来通り、各支部 1 回実施予定。詳細は、第 5 回理事会までに検討。
総会時の講演	日時：3 月 21 日（月・祝） 場所：日本特殊陶業市民会館 3 F 第 1 会議室 テーマはイモムシ、講師は安田守さん。または珊瑚研究者の安部真理子さん。
フォローアップ研修会 （日本自然保護協会・愛知県主催 愛知自然観察指導員連絡協議会後援予定）	日時：8 月 27 日（土）、28 日（日） 場所：庄内緑地グリーンプラザ研修室予定 内容：ネイチャーフィーリングの講習会（日本自然保護協会からの依頼） 引き受ける以上は、一部だけでなく全体でバックアップすることを確認。
分類・生態研修会	日時：10 月 10 日（月・祝）予定 場所：日本特殊陶業市民会館 3 F 第 1 会議室 講演者：全国カヤネズミ・ネットワーク代表の畠佐代子さんに決定。 哺乳類分類の話だけでなく生態の話も行ったかどうかの話題となった。
協議会交流の日	担当：知多支部

2. 理事改選

マンネリをなくし活性化をはかる意味から理事改選は欠かせない。各支部 1 名でも良いから改選できるとよい。大谷会長には引き続き会長をお願いし、打開の方向を 3 役（会長・副会長・事務局）で話しあうこととした。

3. タケ調査中間報告 なんとかまとまったので、次回には、報告したい。

4. 名簿管理 会費の未納者を各支部の責任で年末までに一掃することを確認した。

5. 協議会ニュース 大竹勝氏（初代協議会長）の追悼記事を協議会ニュースに掲載することを了承。

＜その他＞ 生態系ネットワーク協議会としては、知多支部のみ活動あり。西三河南部域と尾張南部地域は準備会で動き始めたとの報告あり。東三河は、次回以降確認予定。

私と自然

大竹 勝

本協議会の発足当初から 2004 年まで会長をつとめられた大竹勝さんが平成 27 年 11 月 3 日に永眠されました。ご冥福をお祈りするとともに、哀悼の意を表し、氏の書かれた「私と自然」を掲載いたします。

私は農村に生まれたこともあって、幼年期に、カブトムシ、フナ、メダカ、などの遊びが私の身の周りにあった。あるとき小学校の国語の教科書で「燕岳に登る」という文章に出会った。田園の風景しか知らなかった私にとって、シナノキンバイやハクサンイチゲの咲き乱れた日本アルプスの自然は鮮烈に私をとらえた。その自然のなかに入り、自信の目でたしかめたいと思った。この時が自然を意識した最初であった。

戦後間もないバラック建ての本屋には、戦前の古本しかないところ、中学の先輩が、或る日“この本を読んでみろ”と、渡してくれたのが一冊の古びた岩波文庫の「ラプラタの博物学者」で、当時博物学という言葉も知らなかった私のハドソンとの出会いである。昆虫が好きであっても、私の自然界への先達はファールブルではなく、このハドソンであった。見たことも聞いたこともない、アルゼンチンのパンパスの自然は、ハドソンの鋭い観察力と素晴らしい文章で私を魅了し、繰り返し何回も読んだ。幸いにも焼け残った学校の図書館に入りびたり、シートン、ホワイト、ベイツ、ウオーレスを読み、昆虫以外の動植物の生活に興味をひかれていった。こうしたことが生物部へ私を引きつけた。その時に出会ったのが、日曜日に部員を自然に連れ出してくれた若い生物の先生で、生きている自然を観察する楽しさを私に教えてくれた。

御多分にもれず標本作りはしたものの、死んだ標本からは生きていたときの生き物との出会いのような感激は生まれてこなかった。この頃、山岳部員として山を歩くようになった。中央アルプスに登ったとき、山麓の樹林から亜高山帯、高山帯へと標高

が上がるごとに変化する植物相は、小学校のときの教科書の文章そのまま、それが生きていて目の前に次々と展開していく感激を、今も忘れることはできない。山屋さん達の興味が山頂を究めることや、岩登りや、冬山、エベレストに向いていくと、山岳会に興味を失い、一人で山を歩くようになった。

私は山は今でも好きであるが、頂上よりも山麓や中腹が好きで、それも春から夏の山が好きである。そこには植物、昆虫、鳥、獣たちが生活を共にしているからである。誰の言葉か忘れたが、“山高きがゆえに尊からず、樹あるをもって尊しとなす”という言葉が、私の自然との対応の基本になっていったのであるが、この頃は、この樹は、文字通り樹木と解していたのであるが、その後自然と付き合っていくうちに、この樹とは、バランスのとれた生態系としての林で、同じ林でも人工林ではない自然林と理解している。

最近では、自然林は無論好きであるが、毎日見ている身近な生物の営みこそ、私にとって大切な自然であると感じている。遠くの自然は、一駒のスチール写真のようなもので、その自然の一断面を捉えているにすぎないからである。そこで生活しない私にとっては、素晴らしくてもやはり遠い存在である。それよりも、日々の散歩道で刻々と変化して行く自然のほうで、生きていて、観察を継続することによって、自然のドラマを感じることができる。より良い自然に接したとき、その対比によってよりその自然の素晴らしさを感じることができる。この自然をいつまでも残したいと心から願うものである。

大竹勝氏の「私と自然」について (p. 11に掲載)

愛知県自然観察指導員連絡協議会の発足当初から2004年3月まで、長きにわたり会長をつとめられた大竹勝さんが去る11月3日に永眠されました。ご冥福をお祈り申し上げます。また、「私と自然」の掲載についてご了解いただいたご遺族の方に、深く感謝いたします。

***** 編集部から *****

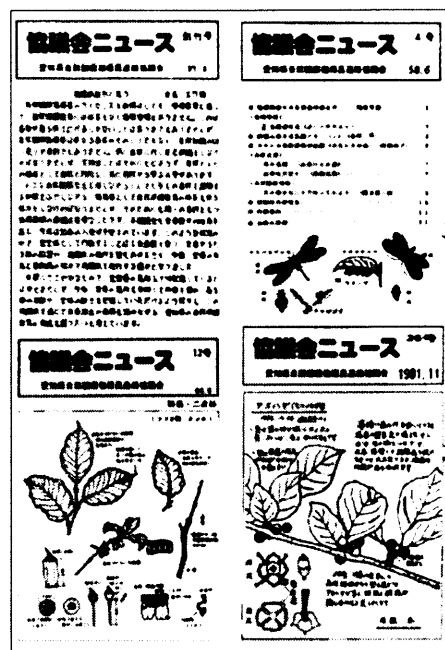
◆150号企画「協議会ニュースの思い出」について

協議会ニュースが創刊から発行150回目を迎えたことを記念し、創刊号、50号、100号と節目となった号から、その歩みを振り返りました。(p. 2に掲載)

機関誌の歩みは50号でも企画されており、皆様の活動に少しでも有益な情報を定期的にお届けしようと、事務局や編集者など多くの方が関わられたこと、定期発刊のために苦労されたことなどが綴られていました。

機関誌の内容としては、観察会の報告や、指導員自らの活動についてご紹介いただく「私の自然観察」など、今の機関紙に通ずる記事が数多く掲載されており、各指導員の活動が堅実に続いてきたという歴史も窺い知ることができました。

今回の企画のために、創刊号、50号、100号の情報をご提供いただいた皆様に感謝いたします。ご協力ありがとうございました。



▲50号に掲載された過去号の表紙

<編集後記> 協議会ニュースも無事150号を迎えることができました。原稿の企画、執筆、編集、校正、印刷、発送等様々な段階で機関紙の発行に関わってくださった方々、そして長年読者となってくださった会員の皆様方、本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(久米)

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」	久米未祐 TEL: 090-3302-1621
編集部	E-mail: ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail: noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page: http://naichi.net
郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告

1. あいちの自然観察会(各支部担当)

実施日	時 間	実施場所	テ ー マ	参加人数	担当支部
5 月 6 日 (水・休)	9:30～12:00	荒池緑地	里山の自然観察	21 名	名古屋
8 月 23 日 (日)	9:30～11:30	矢勝川	矢勝川の生き物観察	14 名	知 多
8 月 23 日 (日)	9:00～11:30	岩藤川	水辺の生きもの	22 名	尾 張
9 月 26 日 (土)	17:00～19:00	豊橋公園	月光浴と夜の自然観察	66 名	東三河
11 月 7 日 (日)	9:00～	面の木峠	紅葉と黄葉	20 名	西三河

2. 研修会

実施日	時 間	実施場所	テ ー マ	参加人数	担当支部
5 月 16 日 (土)	8:00～	茶臼山	春の茶臼山の自然を満喫しよう	13 名	東三河
5 月 31 日 (日)	8:00～17:00	中池見湿地	湿地の自然	9 名	名古屋
6 月 6 日～7 日	7:00～	天生湿原		15 名	知 多
8 月 22 日 (土)	9:30～	城山自然歩道	木曽の国有林で初秋の花見	18 名	西三河
10 月 31 日 (土)	9:30～15:00	春日井少年自然の家	自然素材を使ったクラフト	8 名	尾 張

3. 総会・講演会 日時: 3 月 21 日 (土・祝) 13:30～ 名古屋中小企業振興会館 4 階第 3 会議室

テーマ: 「インタープリターの地球一周」 講師: 元協議会会長の中西 正さん 参加者 43 名、

4. フィールドセミナー 日時: 4 月 5 日 (日) 午前・午後、12 日 (日) 午前 場所: 海上の森

テーマ「目から鱗の植物写真」 講師: いがりまさしさん。 参加者 24 名。

5. 生物分類の研修会 日時 10 月 12 日 (月・祝) 13:30～ 愛知県女性総合センター (ウイルあいち)

第一部 昆虫分類研修会 講師: 苅部治紀さん 神奈川県立生命の星・地球博物館・主任学芸員

演題「日本産トンボ類の最新分体系と深刻化する水辺外来種問題」

第二部 講師: 水野利彦氏 知多支部会員演題「虫あれこ～んな虫がいる」 参加者 42 名

6. 受託事業 豊田市稲武・自然観察ハイキング (名古屋市立振甫中学校) 指導員 20 名派遣

日時: 10 月 20 日 (火) 10:00～12:00 場所: 稲武第 1 本館から面ノ木園地 (2.5km) まで

各クラスに指導員 4 名 5 クラス+特別支援学級 指導員 20 名参加

7. 協議会交流の日&新指導員歓迎会 日時 11 月 23 日 (祝・月) 10:00～15:00 場所: 犬山市野外活動センター

午前 栗栖地区で自然観察 (紅葉の寂光院～桃太郎神社～野外活動センター)

午後 昼食&交流会 (野外活動センターの炊事棟で豚汁提供) 参加者 24 名

8. タケ調査

9. 機関誌「協議会ニュース」の発行 3 月 6 月 9 月 12 月 計 4 回

10. HP

11. 名簿管理

12. 保険

13. 理事会 年 5 回 1 回 3/21 (名) 2 回 5/6 (名) 3 回 7/20 (尾) 4 回 11/29 (知) 5 回 2/11 (名)

14. 自然観察指導員講習会 日時：8月29日(土)～30日(日) 1泊2日 場所：犬山国際ユースホテル
愛知県・日本自然保護協会共催。愛知県自然観察指導員連絡協議会後援。
依頼 観察会地元講師10名 運営補助9名 51名受講(県外9名) 24名県協議会に入会。
その他

第2号議案 平成27年度収支決算報告 (H27年2月1日～H28年1月31日)

収入

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	決算/予算(%)	備 考
会 費	805,000	712,000	▲ 93,000	88%	会員348名+家族10名+前年度未納金6名分等
保険料	120,000	110,520	▲ 9,480	92%	保険料(観察会徴収分@40円×2,759人分)
寄付金	2,000	33,598	31,598	1680%	編集担当、発送担当等
受託金	0	8,700	8,700		10/20豊田市福武・自然ハイキング(名古屋市立振南中学校)
雑収入	0	12,070	12,070		H27協議会加入事務負担金(500円×24名)、利息70円
前期繰越金	1,839,076	1,839,076	0	100%	
合 計	2,766,076	2,715,964	▲ 50,112	98%	

支出

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	決算/予算(%)	備 考
自然観察会費	120,000	110,200	▲ 9,800	92%	保険料(@40円×3,000人分=120,000円) 保険料返戻金(2,755人参加△9,800円)
調査費	20,000	0	▲ 20,000	0%	
研修会費	200,000	123,161	▲ 76,839	62%	4/5・1271-17セミナー、10/12生物分類の研修会、10/31研修会、11/23協議会交流の日&新指導員歓迎会
機関誌作成費	370,000	235,656	▲ 134,344	64%	印刷代、送料、封筒・切手等
受託事業費	0	0	0		
事務費	295,000	225,446	▲ 69,554	76%	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費、8/28・30自然観察指導員講習会他
次期繰越金	1,761,076	2,021,501	260,425	115%	
合 計	2,766,076	2,715,964	▲ 50,112	98%	

平成27年度収支決算報告について、決算報告書並びに通帳、会計帳簿、支払い等証拠書類を監査したところ、いずれも正確で事実と相違なかったことを報告します。

平成28年3月21日

愛知県自然観察指導員連絡協議会

監事 榊原 靖
河江 喜久代

第3号議案 新役員承認

総会当日に発表します。

第4号議案 平成28年度事業(案)

1. あいちの自然観察会 (各支部担当)

実施日	時間	内 容	実施場所	集合場所	担当支部
5月 4日 (水・休)	10:00 ~ 12:00	樹木ラリー	名城公園	名城公園フラワープ ラザ前 9:30~ 受付	名古屋
5月 4日 (水・休)	9:30 ~ 12:00	いらごさららパー クの植物	いらごさららパーク	いらごさららパーク 9:00~ 受付	東三河
5月14日 (土)	9:00 ~ 12:00	新緑の原生林の森	段戸裏谷(設楽町)	駐車場(池の縁) 9:00~ 受付	西三河
					尾 張
					知 多

2. 研修会 (各支部担当) 年6回

実施日	時間	内 容	実施場所	集合場所	担当支部
5月予定 実施日・集合時間場所がわかり 次第各支部長に連絡をします。		かたつむりの研修	豊橋市 石巻山		東三河
5月29日 (日)		貴重な動植物の観 察	奥びわ湖 山門水源の森	地下鉄本郷駅バスタ ーミナル北側 8:00 養老サービスエリア 9:00	名古屋
6月4日(土) ~5日(日)		実施場所・内容がわかり次第各支部長に 連絡をします。			知 多
7月30日 (土)					西三河
					尾 張

3. 総会・講演会日時: 3月21日(土・祝) 13:30~14:40 場所: 日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室
講演: 14:40~16:20 講師: 日本自然保護協会 自然保護室 主任 安部真理子さん
テーマ: 「世界に誇る辺野古・大浦湾のサンゴ礁の海」

4. 生物分類(哺乳類分類と生態)の研修会 日時 10月10日(月・祝) 13:30~
場所: 日本特殊陶業市民会館 3F 第1会議室予定
講師: 畠佐代子さん(日本カヤネズミ・ネットワーク代表)

5. 協議会交流の日 担当 知多支部
日程は 11月3日(木・祝) 9:30 場所: 常滑市蒲池海岸 テーマ: 漂着物の観察会

6. 受託事業について 豊田市稲武・自然観察ハイキング(名古屋市立振甫中学校2年生) 指導員20名派遣
日時: 4月26日(火) 午前中 10:00~12:00 場所 稲武第1本館から面ノ木園地(2.5km)まで
各クラスに指導員4名 5クラス+特別支援学級 指導員20名参加

7. 調査 1年をかけて、どんな調査をしたらよいか会員に呼びかける。

8. 機関誌「協議会ニュース」の発行 3月 6月 9月 12月 計4回

9. HP

10. 名簿管理

11. 保険

12. 理事会 年5回 1回 3/21 (名) 2回 5/5 (名) 3回 7/18 (東) 4回 11/23 (西) 5回 2/11 (名)

13. フォローアップ研修会

日時: 9/3日(土)～4日(日) 予定

場所: 庄内緑地グリーンプラザ予定

日本自然保護協会・愛知県自然観察指導員連絡協議会共催予定。愛知県後援。

その他

第5号議案 平成28年度予算 (H28年2月1日～H29年1月31日)

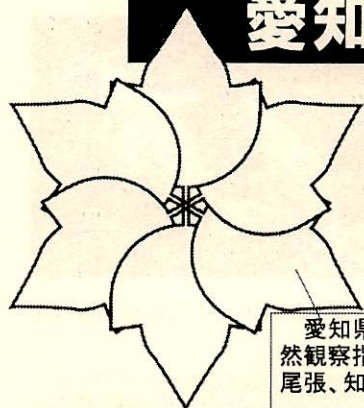
収入

科 目	予 算 額	27年度予算額	差 引	備 考
会 費	785,000	805,000	▲ 20,000	会員400名内家族10名分 (@2000×380+@500×10)
保険料	120,000	120,000	0	保険料(観察会徴収分@40×3000人分)
寄付金	2,000	2,000	0	
受託金	8,000	0	8,000	4/26名古屋市長瀬南中学校 稲武合宿
助成金	100,000	0	100,000	フォローアップ研修用にあいち森と緑づくり税を申請
雑収入	0	0	0	
前期繰越金	2,021,501	1,756,052	265,449	
合 計	3,036,501	2,683,052	353,449	

支出

科 目	予 算 額	27年度予算額	差 引	備 考
自然観察会費	120,000	120,000	0	保険料 (@40×3000人)
調査費	20,000	20,000	0	
研修会費	250,000	200,000	50,000	○研修会10月に予定 講師謝金、会場費等 ○9月上旬フォローアップ研修会補助(助成金適応) ○協議会交流の日運営費補助
機関誌作成費	370,000	370,000	0	発行回数4回、編集会議、印刷代、送料、封筒代等
受託事業費	10,000	0	10,000	下見の講師代(5,000円×2名)
事務費	295,000	295,000	0	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費他
次期繰越金	1,981,501	1,788,052	193,449	
合 計	3,036,501	2,683,052	353,449	

愛知県自然観察指導員連絡協議会



愛知県の木であるハナノキの葉をかたどってデザインされた、愛知県自然観察指導員連絡協議会のマークです。6枚の葉が重なる形は、名古屋、尾張、知多、西三河、東三河、奥三河の6つの支部を表しています

総会・記念講演

① 総 会 受付/13:15～ 13:30～14:30

日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室 名古屋市中区 金山一丁目5番1号 Tel (052) 331-2141

※地下鉄・JR・名鉄金山駅北口から徒歩5分

平成28年度の通常総会です。1年間の活動を振り返ります。皆さん一人ひとりの協議会です。

皆さん方の意見が新たな年度の事業に反映されます。是非ご参加ください。

② 記念講演 受付/14:40～ 14:40～16:20

日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室

講演／世界に誇る辺野古・大浦湾のサンゴ礁の海

講師／安部真理子氏

日本自然保護協会 自然保護室 主任。大学、大学院にて生物学と生化学を専攻し、WWF ジャパンに勤務。琉球大学博士課程にて博士号(理学)を取得。1997年に日本国内でのリーフチェック立ち上げに関わり、以来コーディネーターをつとめる。沖縄リーフチェック研究会会長、日本サンゴ礁学会保全委員、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会理事、海の生き物を守る会運営委員。



安部真理子先生

2016(平成28)年

3/21

(月・祝)

① 通常総会 13:30～

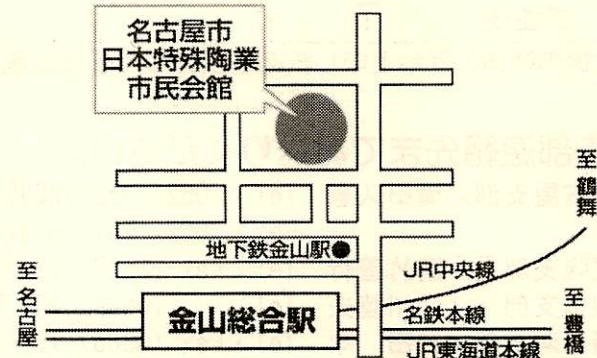
② 記念講演会 14:40～

③ 懇親会 17:00～

主 催／愛知県自然観察指導員連絡協議会
連絡先／事務局 石原則義

Tel・Fax (052) 711・3087

E-mail noriyoshibob@yahoo.co.jp



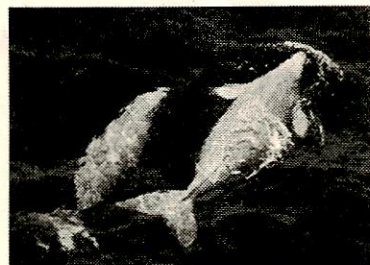
■講演要旨

沖縄島・名護市東海岸の辺野古・大浦湾にはサンゴ礁、海草藻場、マングローブ、干潟、深場の泥地といったタイプの異なる環境と地形が存在し、生物多様性を支えている。国の天然記念物であり絶滅危惧種絶滅危惧IA類(環境省)であるジュゴンと餌場である海草藻場をはじめとし、2007年にその存在が発見されたチリビシのアオサンゴ群集、長島の洞窟など、この海域全域におよび生物多様性が高く、複数の専門家(黒住ら 2003、藤田ら 2009)が述べているように、今後も新種や日本初記録、ユニークな生活史を持つ生物が多発見される可能性が高いことが示唆されている。

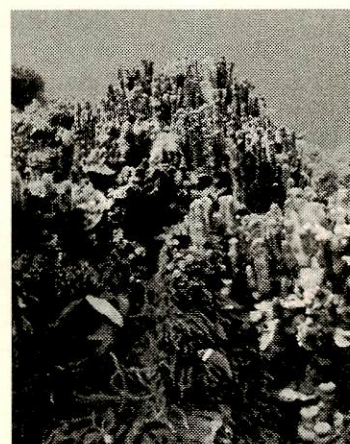
この場所に米軍普天間飛行場移設事業が1990年代より持ち上がっている。現計画であるV字案は2006年より開始され、2013年2月をもって環境影響評価が終わり、同年12月に公有水面埋立承認が仲井真弘多元沖縄県知事により承認された。現在(2016年1月)はボーリング調査の最終段階であり、調査が終わり次第、埋立本体工事着工となる見込みである。

本事業に伴う環境アセスは、2012年2月に仲井真元沖縄県知事が「環境保全は不可能」と断じたほど、科学的に大きな問題があり、住民参加や情報の透明性という観点からも多くの問題が存在した。

辺野古・大浦湾はIUCNが3度にわたる勧告を出しているほどの貴重な自然であり、沖縄界のジュゴンのなかで最も北限に位置する重要なものである。また多くの新種や貴重種を十分に調査することなく埋め立てに踏み切り、外来種が入る可能性のある埋立土砂を本土や他の島々から持ち込むことが、自然環境に大きな影響を与えることは明白である。日本が議長国をつとめた2010年に採択された愛知ターゲット目標9「外来種混入の防止」、目標10「脆弱な生態系の保全」、目標12「絶滅危惧種の絶滅・減少を防止する」を守れない事業を進めることは国際的にも許されないことである。



ジュゴンの親子 ©T.Higashionna



チリビシのアオサンゴ群集 ©O.Makishi

③懇親会 場所 だんまや水産金山駅南口店 受付/16:50～ 17:00～19:30

熱田区金山町1-2-1 金山スクウェアビル4F(金山総合駅南口左側ビル) Tel(052)678・0151

安部真理子さんを囲んで懇親会を行います。奮ってご参加ください。

申込用紙

締め切り 3/14(月) 必着

出席を希望される方は()の中に○印をお書きください。

- | | |
|--------|-----|
| ① 通常総会 | () |
| ② 記念講演 | () |
| ③ 懇親会 | () |
- [飲食代・3,500円 飲み放題・税込]

ご氏名	
ご連絡先	Tel() —
ご住所	〒

会場の準備の都合上申し訳ありません。ご協力を宜しくお願いします。

各支部連絡先までお送りください。

名古屋支部／滝田久憲	Tel・(052) 782・2663	takilin@sf.starcat.ne.jp
	Fax・(052) 781・8127	
尾張支部／齋竹善行	Tel・Fax (0587) 37・7616	yoshiyuki.saitake@nifty.ne.jp
知多支部／南川陸夫	Tel (0569) 42・5382	r-minami@ktf.biglobe.ne.jp
西三河支部／三田 孝	Tel・Fax (0566) 75・4059	mita.takashi@nifty.com
東三河支部／寺本和子		naturekt@wf7.so-net.ne.jp
奥三河支部／浅井聡司	Tel・Fax (052) 701・1552	sky-asai@earth.ocn.ne.jp

愛知県自然観察指導員連絡協議会

名古屋市立振甫中学校・稲武合宿

自然観察 リーダー20名募集！！

昨年に続き、名古屋市立振甫中学校の2年生が稲武合宿で自然散策を実施する際、自然観察に取り組みたいとリーダーの要請が県の協議会にきました。理事会で検討し、県の協議会の行事として取り組むことにしました。自然観察の勉強会も兼ねています。是非ご参加ください。

・日 時 **2016 (平成28) 年 4月26日(火) 10:00~12:00**
(9:30集合 第1本館前集合)

・場 所 **名古屋市稲武野外教育センター第1本館**

愛知県豊田市稲武町井山1-19 TEL 0565-82-2250



第1本館・遠方

●自然観察 (B・OLコース)

第1本館から記念碑・面ノ木園地までの散策道4.0kmをせせらぎの音をききながら自然観察を通して自然に親しみ、自然を楽しむきっかけを語ります。ブナの原生林もあり、カエデの種類も豊富です。春の息吹が感じられます。

1班は8名から10名のグループです。

●下見・自然観察リーダー養成

・日 時 **2016 (平成28) 4月 9日(金) 10:00~12:00**
(9:45集合 第1本館前集合)

・場 所 **名古屋市稲武野外教育センター第1本館**

・リーダー講師：西三河支部自然観察指導員

第1本館から記念碑・面ノ木園地までの4.0kmの道程をリーダーの話しに耳を傾けながら自然を理解し・楽しみ・語る力とします。

自然観察指導員 各支部3名~6名を募集します。

両日参加することが条件です。お申し込みお待ちしております！

申込方法等、詳しくは裏面をご覧ください。



●参加を希望されるリーダー様へ

各支部で集合場所を決め、乗用車1～2台で乗りあってきていただけると助かります。ドライバーには2回分の交通費を支払います。ドライバーには「いなぶのタウンマップ」をお送りします。リーダーには謝金ができます。県の協議会としては、2回目の試みです。ご協力ください。

他支部との良い交流の機会です。自然観察会が終了した後で反省会を含めた交流会を行います。



B・OLコース散策路

※下見の日は都合が悪いが、当日は参加できるという方はご連絡ください。人数が集まらない場合は、下見の日を別に考えます。雨天の場合は支部または個人に連絡をします。

◆締め切り 3月31日(木) 必着

参加を希望される方は各支部長まで連絡下さい	
ご氏名	
ご連絡先	Tel() -
ご住所	〒

主催／愛知県自然観察指導員連絡協議会

連絡先／事務局 石原則義

Tel・Fax(052) 711・3087

E-mail noriyoshibob@yahoo.co.jp

◆支部連絡先までお送りください。

名古屋支部／滝田久憲 Tel・(052) 782-2663 takilin@sf.starcat.ne.jp

Fax・(052) 781-8127

尾張支部／齋竹善行 Tel・Fax (0587) 37-7616 yoshiyuki.saitake@nifty.ne.jp

知多支部／南川陸夫 Tel (0569) 42-5382 r-minami@ktf.biglobe.ne.jp

西三河支部／三田 孝 Tel・Fax (0566) 75-4059 mita.takashi@nifty.com

東三河支部／寺本和子 Tel (0532) 51-5156 naturekt@wf7.so-net.ne.jp

奥三河支部／浅井聡司 Tel・Fax (052) 701-1552 sky-asai@earth.ocn.ne.jp



散策路